

図工科学習指導案(本時案) 6 学年

単元名『12 年後の私』

1 本時の位置 (全 9 時間扱い中の第 4 時)

前時：芯に粘土を付けた。

次時：乾いた粘土に色を塗る。終わっていない人を粘土をつける。

2 本時の主眼

芯と粘土で 12 年後の姿を形作っている中で、イメージ通り形を作っていることを考えている子どもたちが、芯に粘土を使って体や、服などを形作る場面で、友だちの困っていることや、友だちの工夫を共有することを通して、自分の理想の形を意識しながら、自分の作品をより形作ることが出来る

3 指導上の留意点

- ・粘土制作の時間を考えて、時間を配分する。

4 本時の展開

平成 30 年 9 月 10 日(月) 第 1 校時
授業会場 6 年東組教室
6 年東組 男子 19 名 女子 16 名 計 35 名
指導教官
授業者

階	学習活動	予想される児童の反応	時間	指導・援助と評価
導 入	1 前回授業の感想をいいてみる	・難しかった ・もう早くやりたい ・ワイヤーの固定が難しかった ・でも、粘土は楽しい	5	
	粘土を貼り付けて、より自分がイメージした形に近づけよう			○ 子どもたちがより完成形をイメージできるように、細かいところを作っている写真や、自分の作品を前に提示しておく。
	2 教師の作品を提示して、作品の制作過程を流す	・先生ほんとにこれ作ったの？ ・こんな感じで作ればいいのか ・これ面白いな ・どれくらい時間かかった？ ・この作品細かいね ・早く作りたい		
展 開	粘土の付け方を周りの人の作品を参考にして、友だちの困っていることを共有すれば良さそうだ			
	3 作品作りを開始する	・先生もう始めて良いの？ ・先生ワイヤーの固定どうやってやった？ ・股の部分はこうやって隠すのか ・これ参考にしよ	5	○ 子どもたちが道具の使い方が分からなくなったときに、質問されても分かるように、道具を使っているときの写真を撮っておく。 ○ 子どもたちが、安全に創作活動が出来るように、黒板に注意事項を提示しておく。
	4 子どもが作品作りで困っていることを分かりやすく示すために作品を I P a d で写す	・えー、こんな風に出来るんだ ・ここやっぱりそうなるよなあ ・すごい難しいな ・自分のとちょっと違うな ・ここ俺も困ってるんだよな ・先生ここどうやってやった？ ・	20	○ 「何か困ってることある？」 ○ 子どもたちが、友だちの困っていることを共有しやすくするために、iPadで困っているところを写して確認する。 ○ 子どもたちが困っていることを共有できるように、途中で聞いたみんなが困っていることを黒板に残し、強調をする。
末	5 作品作りを再開する	・さっきやったこと参考にしよ ・結構進んできたな ・色塗りそろそろしても良いかも ・まだ全然進めてないや	10	○ 子どもたちが完成形に近づいたときに、色塗りを乾いていない段階でいる塗りをしないために、子どもに注意をしておく。

	6 周りの人がどれ くらいの進度で 作品を作ってい るのかを確認す る	・こんなに進んでるのか ・これすごいな ・早く進めないと ・次の時間は色塗りしよ	5	評価：粘土を使い、自分の理想のかた ちに近づけることが出来ている。 ・制作の姿・作品の形から
--	---	--	---	---